

平成 29 年度

岡山県産婦人科医会  
事業計画(案)

岡山県産婦人科医会

# 平成 29 年度岡山県産婦人科医会事業計画

岡山県産婦人科医会会長 山 崎 善 久

平成 29 年 4 月～31 年 3 月までの 2 年間会長を引き続き務めさせていただくことになりました。ご協力よろしくお願い申し上げます。また、平成 29 年度は役員の一部改選(藤原道久先生から本郷淳司先生に交代)を行います。各役職を十分に果たしていただきたいと思えます。

平成 29 年 4 月 19 日 (水) に、第 1 回の理事会を開催しました。協議事項として、

1. 岡山県産婦人科医会会計報告①平成 28 年度決算 ②平成 29 年度予算 (案) ③慶弔積立金平成 28 年度決算④同の平成 29 年度予算 (案) ⑤平成 28 年度おぎゃー献金事業収支決算⑥同の平成 29 年度予算 (案) 等を挙げた。
2. 岡山県産婦人科医会平成 28 年度事業報告・平成 29 年度事業計画等について協議した。

平成 28 年度決算は、<収入>2,948,170 円<支出>2,853,015 円で、収支差額+95,155 円。  
平成 29 年度予算は、日本産婦人科医会中国ブロック協議会岡山県で開催のため支出増となり、<収入>2,919,630 円<支出>3,552,100 円で、収支差額は-632,470 円の予算になる。

- 4 月 15 日 (土) 平成 29 年度「拡大医療改革委員会」兼「産婦人科医療改革 公開 フォーラム」が広島市で開催され中塚理事出席予定。
- 5 月 21 日 (日) 岡山県産婦人科医会総会・岡山県産婦人科学会総会に引き続き、「改正母体保護法」指針による母体保護法指定医師研修会を開催する。  
講演 1. 「どのような時代になっても母体保護法は重要な法律です」公益社団法人日本産婦人科医会 会長 木下 勝之先生  
講演 2. 「産婦人科診療を取り巻く生命倫理に関する話題」  
岡山大学医学部保健学科教授 中塚 幹也先生  
講演 3. 「楽しい医療安全」  
川崎医科大学付属病院副院長 永井 敦先生
- 6 月 11 日 (日) 第 85 回定時総会があり、副会長出席予定
- 7 月 2 日 (日) 第 45 回全国献金担当者連絡会が品川プリンスホテルで開催され、江尻副会長が出席予定。
- 7 月 23 日 (日) 第 3 回母と子のメンタルヘルスフォーラムが岩手県で開催される。  
中塚理事が出席予定。
- 7 月 30 日 (日) 第 40 回日本産婦人科医会性教育指導セミナー全国大会が京都府で開催され、山崎会長が出席予定。
- 9 月 2 日・3 日 (土・日) 平成 29 年度日本産婦人科医会中国ブロック協議会が ANA クラウンプラザホテル岡山並びに岡山県医師会館で開催され、山崎会長以下役員が出席予定。
- 10 月 21 日 (土) 地域代表全国大会が紀尾井カンファレンスで開催され、副会長が出席予定。
- 10 月 21・22 日 (土・日) 第 44 回日本産婦人科医会学術集会在東京都で開催され伊原理事が出席予定
- 平成 30 年 1 月 7 日 (日) おぎゃー献金チャリティーコンサートが、シンフォニーホールで開催される。

平成 30 年 3 月 11 日（日）第 86 回日本産婦人科医会総会（臨時）が京王プラザで開催され、副会長が出席予定。

開催日未定

●第 26 回全国医療安全担当者連絡会が京王プラザで開催され、坂口副会長が出席予定。

●厚労省・日医母体保護法指導者講習会が日本医師会館で開催される。田淵理事が出席予定。

●全国医業推進担当者伝達講習会が開催され、〇〇出席予定。

# 1. 総務部

## A. 庶務

- (1) 岡山県産婦人科医会と岡山県産婦人科学会、岡山県医師会産婦人科部会が協力して年6回の専門医会（5月は総会）を開催する。
- (2) 5月の総会では、岡山県医師会が主催する母体保護法指定医師研修会を実施し、特別な参加証（ゴールドシール）を配布し、ゴールドシールの取得を推奨し、会員の倫理の向上を図る。
- (3) 中国ブロック協議会（岡山県担当）で一般協議と医療保険の協議を提出し本部役員を交えて協議を行い、その結果を岡山県産婦人科医会の運営に役立てる。
- (4) 産婦人科医療のさらなる充実を図る。
- (5) 関係各団体との協力、協調、連携を進める。
- (6) 新規会員加入の促進を考える。

（江尻）

## B. 対外広報・渉外

- (1) 対外広報への積極的アプローチ  
産婦人科医療情勢に対する社会的関心の引き続きの高揚、岡山県産婦人科医会の活動方針・活動状況等を広く社会の理解を求めていくために、対外広報活動は重要である。この観点から各種マスコミへの対応を心掛ける。日本医師会、日本産婦人科医会・学会とも連携をしっかりと取り、同時に、岡山県医師会、市郡医師会、岡山産科婦人科学会、岡山県医師会産婦人科部会との協力も密にし、産婦人科医会会員への広報の強化もはかる。  
引き続き山崎会長のもと理事全員で活動を広げていきたい。
- (2) 渉外活動の推進  
極めて厳しい環境にある産婦人科医療情勢の改善には医政に訴えていくことが重要である。これらの改善を含めた施策を求めていくために、日本産婦人科医会とも密に連携をはかり、県医師会を通じて日本医師会、更には地元国会議員、県議会議員に働きかけ国政・県政の立場から産婦人科医会の要望に応じてもらうべく渉外活動を展開していく。性犯罪被害者支援は、岡山県警、VSCO とさらに密に連携をはかる。性教育の推進のため、教育委員会とも連携をはかる。児の虐待も問題となっており、男女共同参画審議会等との連携、岡山のベビー救済協会の活動のさらなる充実を推進したい。加えて、おぎゃー献金の推進にも力を入れたい。  
特に、平成29年は、中国ブロック協議会が岡山で開催されるため、理事全員で協力し成功に導きたい。

（澤井）

## C. 法制・倫理

- (1) 母体保護法の適正な運用と啓発  
母体保護法の内容、運用上の問題点についての医会の見解を明らかにし、その周知徹底をはかる。
- (2) 人工妊娠中絶実施報告書の100%提出を指示する。
- (3) 産婦人科関連法規の制定・改訂に対する伝達  
母体保護法をはじめ、産婦人科業務に関連する医療法規や労働法規の解釈・運用に

ついて、的確に伝達する。

- (4) 日本産科婦人科学会倫理委員会との連携  
医学的倫理問題については、日本産科婦人科学会および同倫理委員会と密接に連携・協議された問題点についての対応に万全をはかる。
- (5) 平成 27 年 10 月よりスタートした新しい事故調査制度をしっかりと把握し対応に万全をはかる。

(澤井)

## 2. 経理部

- (1) 会計経理業務の管理  
一般会計経理業務について、各部の事業推進に支障のないように予算を立てる。
- (2) 収支予算、収支決算  
均衡のとれた収支決算を立てる。また経理処理に関し会長及び監査の指導、監査を受ける。
- (3) 岡山県産婦人科医会  
収入の部①岡山県産婦人科医会費 (2,450,000 円) ②日本産婦人科医会費 (4,584,000 円) ③雑収入 (469,630 円) ④繰越金 (1,221,545 円) 総計 8,725,175 円。  
支出の部①日本産婦人科医会費 (4,584,000 円) ②事業費 (2,280,000 円) ③会議費 (415,000 円) ④旅費 (367,100 円) ⑤通信費 (250,000 円) ⑥印刷費 (100,000 円) ⑦消耗品費 (10,000 円) ⑧雑費 (30,000 円) ⑨積立金 (100,000 円) ⑩予備費 (589,075 円) 総計 8,725,175 円である。
- (4) 慶弔積立金収支予算  
収入の部①会費 (71,500 円) ②他会計繰入金 (100,000 円) ③雑収入 (5,010 円) ④繰越金 (67,412 円) 総計 243,922 円。  
支出の部①慶弔費 (15,000 円) ②予備費 (228,922 円) 総計 243,922 円である。
- (5) おぎゃー献金事業収支予算  
収入の部①還元金 (185,886 円) ②おぎゃー献金推進活動補助費 (500,000 円) ③協力金 (200,000 円) ④利息 (50 円) ⑤繰越金 (1,930,108 円) 総計 2,816,044 円。  
支出の部①事業費 (800,000 円) ②通信費 (20,000 円) ③予備費 (1,996,044 円) 総計 2,816,044 円である。

(坂口)

## 3. 学術研修部

- 平成 29 年 5 月 21 日 (日)  
会場：岡山県医師会館 三木記念ホール 母体保護法指定医師研修会
  - 1) 講師：日本産婦人科医会会長 木下勝之先生  
演題：「どのような時代になっても母体保護法は重要な法律です」
  - 2) 講師：岡山大学医学部保健学科 中塚幹也先生  
演題：「産婦人科診療を取り巻く生命倫理に関する話題」
  - 3) 講師：川崎医科大学附属病院副院長 永井 敦先生  
演題：「楽しい医療安全について」

- 平成 29 年 7 月 9 日（日）13：00～15：00（予定）  
会場：ピュアリティまきび  
講師：鹿児島大学大学院医歯学総合研究科生殖病態生理学 教授 小林裕明先生  
演題：「若年あるいは妊娠中の頸がん患者に対する広汎子宮頸部摘出術の光と影」
- 平成 29 年 9 月 17 日（日）岡山県医師会館  
講師：北里大学医学部産婦人科教授 海野信也先生  
演題：「地域分娩環境を守るために」
- 平成 29 年 11 月 19 日（日）岡山産科婦人科学会 川崎医科大学  
講師：熊本大学医学部教授 片渕秀隆先生  
演題：「他科から紹介される産婦人科疾患：感染症・炎症性疾患、稀少部位 子宮内膜症」
- 平成 30 年 1 月 21 日（日）岡山県医師会館  
講師：島根大学医学部産科婦人科学教授 京 哲先生  
演題：「卵巣癌の origin を考える！」
- 平成 30 年 3 月 18 日（日）岡山県医師会館  
講師：東京医科歯科大学産婦人科教授 宮坂尚幸先生  
演題：「産婦人科医療における医学・工学連携」
- 市民公開講座  
平成 30 年 3 月 4 日（日）岡山大学医学部マスカットキューブ  
講師，演題は未定

（平松）

#### 4. 医療安全部

- （1） 医療安全過誤防止事業の推進に努める。  
専門医会や研究会において医療安全を推進するための講演を開催する。
- （2） 日本産婦人科医会より提案される医療安全の指針を会員に徹底する。  
産婦人科医会報に掲載される安全の指針、母体安全への提言を活用する。
- （3） 平成 29 年秋に開催される第 26 回全国医療安全担当者連絡会に参加し、連絡内容を報告する。

（坂口）

#### 5. 医療対策部

##### A. 医療対策

- （1） 分娩取り扱い施設の不足する地域での分娩取り扱い支援。
- （2） 診療報酬改訂の流れにも沿った病診連携の推進。
- （3） オープン、セミ・オープンシステムの維持、推進。

##### B. コ・メディカル対策

看護師、助産師の適正配置にむけた取り組み。

（長谷川）

#### 6. 勤務医部

- （1） 勤務医の本会行事への参加および入会促進  
本会行事の広報活動を活発化し、勤務医の本会行事への参加を促進し、さらに本

会への加入を促進する。

(2) 持続可能な産婦人科医療提供に向けた活動

岡山産科婦人科学会と協同して、勤務医待遇改善、子育て女性医師支援、研修体制の整備等による産婦人科専攻医の増加、継続就労率の上昇を図るとともに、医療機関の機能分化と連携強化による持続可能で安定的な産婦人科医療提供に向けた活動を行う。

(3) 新しい専門医制度への対応

新しい専門医制度に基づく研修制度及び専門医の更新に関する情報を周知し、会員が円滑に対応できるように広報活動を行う。

(増山)

## 7. 医療保険部

(1) 基金、国保の審査委員が必要に応じて審査上の問題点につき、メール交信、検討会を行って両者の是正を図る。

(2) 保険診療審査につき医会に会員から疑義の等の問い合わせの文章やメールがあれば、審査委員の合議の後、すみやかに文章またはメールにて回答または指示を行う。

(3) 平成 29 年度中国ブロック協議会 9 月 2 日、3 日（岡山県担当）に医療保険協議議題を提出し、本部役員を交えて協議を行う。

(4) 専門医会医会報に“保険だより”を掲載し、会員に周知を図る。

(5) 毎年 1 月発行の岡山県産婦人科医会報に前年の“保険だより”の総括を掲載する。

(江尻)

## 8. 広報部

(1) 岡山県産婦人科医会ホームページ問題を解決する。

保険便りなど有用性の高い記事も多いので、なんとか維持をしたいと考えている。活用を促すため会員の方にホームページの存在を会員に PR したい。ただ、ホームページの維持管理費もかかるため、アンケート調査を行い、利用状況を把握したうえで今後の方針を理事会に提案協議にかける。

(2) 岡山県産婦人科医会報：第 63 号を平成 30 年 1 月に発行する。

(田淵)

## 9. 女性保健部

(1) 学校性教育の充実

妊娠・出産、女性の生涯を通じたヘルスケアの基本知識の浸透  
行政教育関連部署との協力

(2) 月経関連疾患の予防と治療についての啓発

(3) 高齢女性のヘルスケア

ホルモン補充療法の知識啓発  
骨粗鬆症・脂質異常症・骨盤臓器脱の予防啓発活動

(4) 女性アスリートの健康支援

(5) 乳がん、子宮がん検診の受診勧奨

(6) 子宮頸がんワクチンの接種勧奨再開への協力

(7) 女性のメンタルヘルスの啓発

(金重)

## 10. 母子保健部

### (1) 「妊娠中からの気になる母子支援」連絡システムの推進とその有効性の評価

岡山で誕生し、平成23年に導入された産科発の子育て支援である「妊娠中からの気になる母子支援」連絡システムにより、平成28年は650件の社会的ハイリスク妊産婦の連絡を受け、妊娠中から切れ目なく支援を行うことが可能になった。

全国では、子どもの虐待通告件数が増加している中、岡山県では、平成23年頃から子どもの虐待通告件数が減少傾向に転じている。引き続き、このシステムの効果を検証する。

### (2) 産科と精神科の連携：妊産褥婦へのメンタルケアの充実に向けて

妊娠前～妊娠中～産後まで継続したメンタルケアは、子どもへの愛着形成促進や虐待予防には不可欠である。産科スタッフと精神科医などのメンタルヘルスの専門家との連携を構築するとともに、EPDSなどの指標を用いた、うつ等の早期発見に向けパンフレットの配布、啓発を継続する。

### (3) 子育て広場と産科とのマッチング

産科スタッフへの調査では、その施設の周囲に存在する地域子育て支援拠点の存在をあまり知らない現状が明らかになっている。子育て広場スタッフが、産科医療施設で行われている両親学級などへ乗り入れることなどにより、産科スタッフと子育て広場スタッフとの連携を強化するとともに、妊婦にも妊娠中から子育て広場の存在を知ってもらうための取り組みを促進する。

### (4) マタニティハラスメント・パタニティハラスメントについての啓発

就労する妊産婦や子育て中の母親・父親への情報提供や支援に向けて、マタニティハラスメント、パタニティハラスメントの啓発を行うとともに、行政や企業に向けて産婦人科医の行うことができる役割について検討する。

### (5) 思春期からの子育て支援、妊孕性に関する知識の啓発

妊婦中のDV、望まない妊娠、胎児への愛着不全などに関連する社会的ハイリスク妊産婦を、妊娠中に見つけても、すでに支援が困難となっている例も存在する。このため、女性保健部とも連携し、思春期の時期からの啓発について検討する。

### (6) 乳児へのワクチン投与に関する啓発

ヒブワクチン、結合型肺炎球菌ワクチンが定期接種となったこともあり、乳児へのワクチン投与の必要性やスケジュールなどを妊産婦に説明できる産科スタッフを増加させる必要がある。そのための方策を検討する。

### (7) 妊娠を考える人々への風疹ワクチン接種に関する啓発

先天性風疹症候群の予防のため、ワクチン接種、検査の公的補助を要望するとともに、妊娠を考える人々へ風疹抗体検査の必要性や風疹ワクチン接種を啓発する。

(中塚)

## 11. 先天異常部

(1) 国際先天異常監視研究機構クリアリングハウスモニタリングセンター事業への協力

(2) 胎児異常の診断調査の継続

(3) 風疹ワクチン接種の推進および調査

(4) 葉酸摂取の推進および調査

(下屋)



## 1 2. がん対策部

産婦人科医による女性の生涯健康管理の一環としてがん検診事業をはじめとする諸事業に積極的に取り組む。

- (1) 婦人科がん検診について
  - ① ベセスダシステム一本化の促進
  - ② 子宮頸がん検診率上昇のための啓発活動
  - ③ 子宮頸がん液状細胞診と HPV 検査併用検診の導入の促進
  - ④ 子宮体がんや卵巣がんの早期発見のための子宮頸がん検診時の経膈超音波検査による子宮内膜や卵巣のスクリーニングの導入の促進
- (2) 子宮頸がん予防ワクチンの接種時の注意すべき事項の徹底・啓発活動について  
まだ積極的な接種勧奨は一時中止された状態がつづいているが、本人の希望がある場合は以下のことに注意をして接種してください。
  - ① 接種時に強い痛みを生じやすいワクチンであることや副反応について接種前に十分に説明してから接種する。
  - ② 接種後の強い痛みで生活の質（QOL）が低下する様な事態が生じた場合はそれ以降の接種の中止や延期を検討して、岡山大学または川崎医大に報告して対策を検討する。
  - ③ 接種時に強い痛みや苦痛を受けて持続しているなど副反応として自己申告してもらえるように次回接種の予約票に連絡先を記載して伝える。
  - ④ 臨床データの収集に努力して副反応の実態調査に参加して科学的に研究解明できるようにする。
- (3) がん登録事業への協力と婦人科がんの実態解明
  - ① 子宮頸がんの罹患率・死亡率の増加についての検討  
特に子宮頸がん検診のデータの蓄積と子宮頸部異形成から子宮頸がんへの自然史について検討する。
  - ② 子宮体がんの罹患率・死亡率の増加についての検討
  - ③ 卵巣がんの罹患率・死亡率の増加についての検討

(中村)

## 1 3. 献金担当連絡室

- (1) 平成 29 年度の全国担当者会議に出席する。
- (2) 平成 30 年 1 月 7 日（日）にシンフォニーホールで第 4 回おぎゃー献金基金チャリティーコンサートを開催予定。
- (3) 会員に引き続きおぎゃー献金活動へ理解と協力の依頼をしていく。
- (4) 産婦人科施設へ引き続きおぎゃー献金のポスト設置を徹底する。
- (5) 伊藤園、コカ・コーラの自販機の設置を推進していく。

(江尻)

## 1 4. 警察医部

岡山県警察協力産婦人科医会の円滑な運営を図る。

(藤原)

( ) は担当の責任者